

病院側プレゼン内容

- 1、『口腔ケア地域連携事業』についてご説明いたします。本事業は、貴院に入院する患者さまの合併症を予防する目的の事業であります。治療の生存率等の命にかかわる話ではなく、『患者さまの支持療法』すなわち予定された治療や手術が予定どおりに問題なく進行し、医療現場が治療に専念できることを目的とした地域連携であります。
- 2、ご承知のように、クリティパスを利用した医療連携が進められていく時代ですが、今後は在宅や施設をふくめた『地域完結型医療』が求められてきます。そのなかで、今回は侵襲のおおきな手術、がん治療と脳卒中のパスのなかに、効率的に口腔ケアを組み込むことで、患者さまの QOL を維持するシステムを考えております。
- 3、この図は、口腔ケアにて予防できる合併症を示しています。右枠の脳卒中術後の嚥下障害は、退院後に繋ぐ地域連携です。しかし左枠のがん口内炎と手術後の肺炎や菌血症のグループは、入院前に地域歯科にて口腔ケアを受けてから入院することで、これらの合併症を予防することができます。特に ICU 入室予定者や頭頸部放射線治療や血液がん治療予定者は、術前の口腔ケアにより効果が期待できる対象者となります。
- 4、では、配布しました、リーフレットをご覧ください。感染対策が青、がん口内炎対策が赤、誤嚥対策が黄色の 3 種類のリーフレットに分類しております。そして、対象者は『なぜ入院前後に歯科を受診するか理由』が記載されております。この青・赤のリーフレットを外科・内科・外来化学療法科等の待合室および診察室に設置していただき、患者さまへの情報として、医師や看護師のみならず、配布を促していただければ幸いです。黄色のリーフレットは、病棟及び退院説明や退院カンファレンス時にご利用ください。
全国で 9000 ある病院のうち、歯科があるのは 1200 ぐらいで、85%の病院には歯科がなく、口腔ケアをナースだけで細々とがんばっているところが多いと思います。それを入院前から近隣の歯科医院が支援することで、「入院してからのナースによる口腔ケアの負担を軽減しよう」という発想です。むし歯や歯周病などの歯科的問題を抱えたまま入院されると、口腔ケアを担当するナースががんばっても、成果が上がりにくいのです。
内容に関しての全てのお問い合わせは、各郡市歯科医師会にてお受けいたします。
では、スライドをご覧ください。患者さまが、このように配布されたリーフレットをかかりつけ歯科に提示することにより、入院前に口腔をクリーニ

ングして、入院時に患者自身がセルフケアをして手術や治療に望む体制を整えます。また、挿管時や入院中の歯の脱臼を防止いたします。

尚、退院後の在宅医療の依頼に関しましては、各郡市歯科医師会にて受付を致します。貴院におきましては、外来でのリーフレットの配布をお願いしたいという依頼です。

- 5、では、予防的口腔ケアの効果についてご説明いたします。がん治療に伴う口腔トラブルは、40%の患者さまに発現してその半数、約 20%の方が『つらい口内炎』に悩まされます。また、血液がんや頭頸部放射線治療では、ほとんどの方に出現して、治療スケジュールにも影響を与えます。
- 6、スライドの如く、重度口内炎にてモルヒネによる徐痛や絶食を余儀なくされる患者さま、を病棟ではよく見受けられます。これらの有害事象は、現在、口腔ケア以外には治療方法がありません。また、口腔乾燥痰も重度の場合は呼吸に影響を及ぼしている場合もございます。
- 7、そして、今後は社会の高齢化により、これらの口腔トラブルが急速に増加して、退院までの QOL や在院日数が予定よりさらに延長していくことが予想されます。
- 8、これらのトラブルは、治療方法や免疫抑制の程度により、全てを解除することは、出来ませんが、その程度を軽くすることが出来ます。左の図は頭頸部がん再建手術における予防的口腔ケアの効果、右の図は5-FU をコンバインドする場合のトラブルの増加を示しています。
- 9、この図は、ICUにおける人工呼吸器関連肺炎、通称 VAP（バップ）の発症率を示しています。歯科医師が ICU に介入して、口腔ケアという因子が VAP に及ぼす影響を10年かけて調べたものです。
- 10、その結果、口腔ケアは口腔内における VAP 原因菌を減少させる。そして、ICUにおける VAP 発症率を減少させ、VAP 発症を遅らせることが検証されました。
- 11、これらの口腔ケアの研究はこの10年間ナーシングホームを中心として、エビデンスが出てきましたが、口腔細菌が呼吸器に影響を及ぼし、口腔ケアを導入することで嚥下機能や咳反射も向上して、肺炎発症率を抑制することが示されています。
- 12、本事業のモデル事業を千葉県柏市にて6ヶ月間実施したところ、医師や看護師にも一定の評価が得られました。

※ 最後に、本連携事業は貴院の患者さまが、地元の歯医者にて安心した治療を受ける病診連携であります。

※ 基本的にはかかりつけ歯科に受診していただきますが、対象者はがん等の

重篤な病気であることから、受診をかかりつけ歯科にて拒否される場合があります。また、治療スケジュールに応じた口腔ケアや口内炎発生時のうがいの方法や徐痛の方法を患者さまが事前に知っていただくことが大切です。このように利権治療だけではなく、患者さま一人一人の入院環境にも配慮する研修を受けた歯科を『口腔管理歯科』とよび、我々歯科医師会も継続した研修をしております。

- ※ どの歯科を選択するかは、患者さまに決定していただくことで良いかと思われま。まだ始まったばかりの未熟なシステムですが、本県全ての患者さまに対して、ご利用できる体制を整えますので、どうかご検討、ご協力の程お願い申し上げます。